

知る、想像する、思いやること

五年一組 成田 ひかる

わたしは「十歳のきみへ」という本を読み
ました。この本を選んだのは、十歳の誕生日
に、お母さんにすすめられたからです。

著者の日野原重明さんは、今年101歳の現役
の医師です。この本には、日野原さんが10歳
だった頃から今までに体験した事や考えた事
などが書かれています。

わたしは、この本を読んで心に残ったところ
は、二つあります。一つは、「きみが今日流
したなみだはどれかのなみだをわがため
のレツスンかもしれない」です。日野原さんは、
大学生の頃、当時「死病」とおそれられてい
た結核にかかり、ほとんど一年ねたきりです
ごしました。日野原さんはそれを「最悪
な体験だ」と思っていて、でも、医師になっ
てしばらくして、その体験が、患者さんと思
いやるための大切なレツスンだったことに気
付きました。

わたしはこの部分を読んで、最近、新しく
行き始めた医院であつた出来事を思い出しま
した。わたしは小さい頃からアレルギーの治
療のため病院に通い、毎日薬を飲んでいま
ある日、わたしが

「一日中鼻水が止まらなくて、頭も痛いので
どうしたらいいですか。」と言つたら、先生
は、コンピューターの画面を見たまま、

「薬の効きは人によつてちがうから一日中出
ていても仕方ないです。かまんするしかない

ですわ。」と言いました。そのとき私は、はら
が立っただし、あきらめました。今は、「だれ
かのなみだをわかるレッスン」だつたと思つ
ています。

二つ目は、「知る」ということをもつと大
事にしておさい。私はまだ経験したこ
とは少ないけれど、想像力を働かせて、ほか
の人のことをよく知り、思いやることのでき
る人になります。そしていつか、日野原先生
が私たちに託した平和を、実現したいです。